

### 13. 倭の五王（ごおう）が活躍した古墳時代中期

古墳時代の中ごろ、日本で一番大きい古墳の仁徳天皇陵（にんとくてんのうりょう）古墳がつくられたの。この頃は、王たちが自分の力を見せつけるために、大きな古墳を競い合うようにしてつくっていました。

この頃の古墳からは、鉄でできたヨロイやカブトが大量に見つかります。ですから、当時の王は、ヨロイ・カブトで身を守り、刀や剣をたくさん持って、自分が強いことを示そうとしていたことが分かるの。鏡を使って神様の教えやまじないに頼っていた、卑弥呼（ひみこ）の時代と大きく違います。

また、この頃は新しい技術がどんどん入ってきた時代でもあったの。鉄を加工する高度な技術や、灰色で硬い土器の須恵器（すえき）を作る技術が伝わったわ。新しい文化や技術によって人びとのくらしも大きく変わりつつあった時代だったのね。